

〇脚治療に強い味方

ひざ関節の軟骨がすり減り、歩行時などに激しい痛みを伴う変形性ひざ関節症の治療で、済生会松山病院(岡田武志院長)の山崎準平リハビリテーション科長らのグループがこのほど、患者の痛みを大幅に軽減できる治療用装具を開発した。

山崎科長によると、変形性ひざ関節症の大半を占める〇脚の治療で、軽症患者は、また重症患者は、装具を着けても痛みが抑えられず有効な治療は手術しかないとされていた。そこで同グループは、装具の上下をつなぐジョイント部分を、ひねりに対応できるように独自に開発。痛みを大幅に軽減することに成功した。装具は、医師の診察に基づいて処方され、三月から患者約三十人が使用。痛みを訴える人はいな

痛みが少ない装具開発

ひざの「ひねり」をカバー

は、ひざに専用の装具を着けて治療する。しかし、従来の装具は前後だけでなく、ひねりが加わるひざ関節の動きをうまくカバーできず、痛みを緩和できな

いと。同科によると、四十歳以上の日本人の五人に一人が同関節症に悩まされており、うち九割以上が、ひざ関節が内側に曲がる〇脚。

高齢女性に多く、歩行時や階段で激しい痛みがある。山崎科長は「関節症に苦しむ患者が多い中、痛みの少ない装具を予防法として使うことができれば」と話

している。変形性ひざ関節症の治療に詳しい松山市余戸東、藤原郁郎・整形外科医師は「これまでの平面的な治療法を、立体的にした点で独創的。痛みを除く効果は大きく、臨床的にも効果が上がっている」と評価している。



済生会松山病院のグループが開発した治療用装具

済生会松山病院・山崎科長ら